

HUIS TEN BOSCH
SMART HOTEL

ハウステンボス スマートホテル 基本構想

2013 . 10 . 04

ハウステンボス株式会社

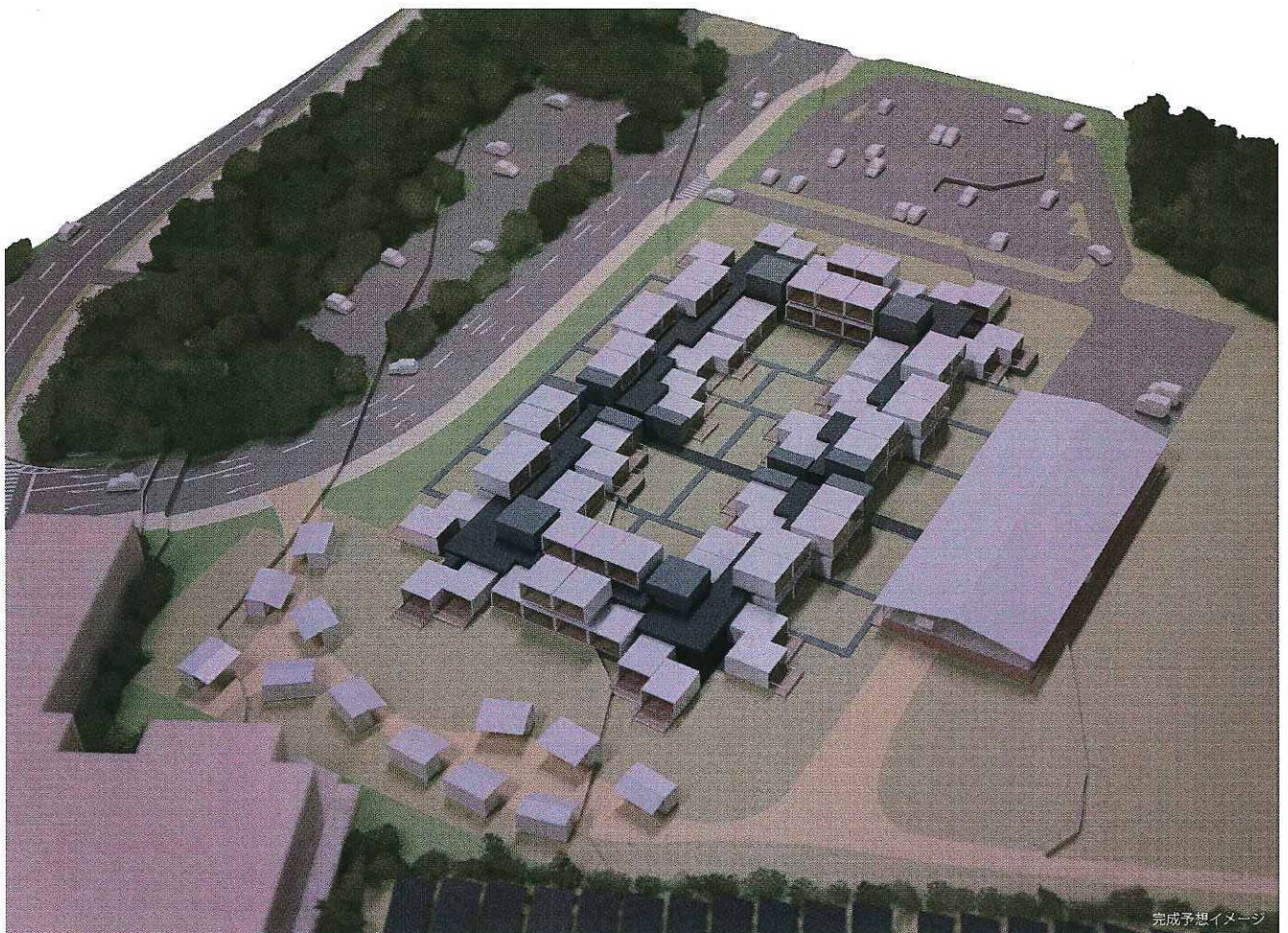
Glocal Village

グローカルビレッジ

環境未来都市、1000年の街を目指すハウステンボスが新たに取り組むプロジェクト「スマートホテル」
自動化やロボット化によって世界最高の生産性を目指すと共に、積極的な再生エネルギーの活用によってランニングコストを極限まで抑えたホテルを実現します。

人間、ロボット、自然に加え、新しいコミュニケーションを融合させることで、これまでに経験のしたことの無い体験を提供するホテルを目指します。

建物はハウステンボス周辺の地域特性を活かした材料や工法を活用しながらも、世界展開を見据えた建築生産システムを採用。ローカリティ(地域性)とユニバーサリティ(普遍性)を兼ね備えた建築のあり方を模索します。



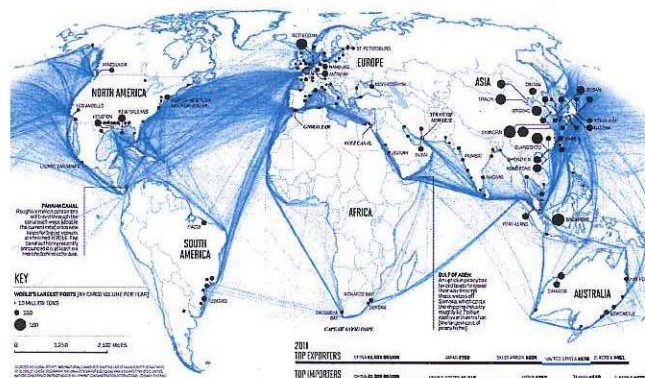
完成予想イメージ

1) 地域の材料や技術を活用した客室ユニット

このスマートホテルの客室には、地域の技術や材料を積極的に活用します。佐世保の造船業と共に発達した鉄構技術や、国産材を中心とした木材の積極的な活用。ハウステンボスならではの地域性を有するホテル客室の生産を目指します。

さらに、これらの客室は物流規格をモジュール(基準寸法)として制作され、海上及び陸上の輸送に適した寸法で制作を行います。世界基準となる規格を採用することで、同規格を用いて世界中で展開可能なホテルのシステムを構築し、長期的な世界展開を見据えた挑戦を行います。

地域特性や産業を活かした客室を作ること、地域ならではの客室になると同時に、世界標準の規格を持つこと。それが「Glocal Village」の由来となります。



2) 未来の再生可能エネルギーの活用

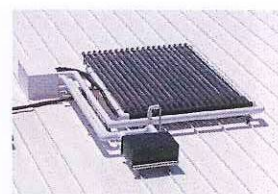
このスマートホテルでは、スマートハウスでの実験結果を活用し、太陽光発電や太陽熱パネルをはじめとする様々な未来のエネルギーを搭載することを予定しています。

建設する敷地によって、活用できる自然エネルギーの種類も効率も変わってきます。その敷地に与えられた条件に応じて、エネルギー活用の組み合わせ方法を考え、敷地に適合した高効率なホテルを目指します。

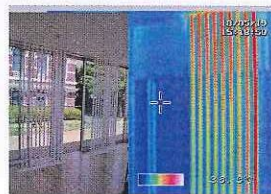
長期的にはインフラの届かない地域においても実現可能なホテル客室のプロトタイプとなることを目標としています。



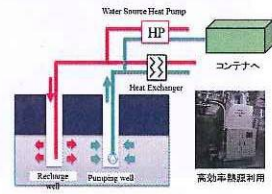
太陽光発電 (照明+コンセント用)



太陽熱パネル (暖房+給湯用)



放射パネル+自然通風



井戸熱+DHC+高効率熱源+A I 制御

3) ロボティクスを導入した快適で新しい「おもてなし」

このスマートホテルには、ロボットによるサービスを積極的に導入します。ロボットの導入によりホテル運営において大きなウェイトを占める人件費を大幅に削減することが可能となります。

しかし、この取り組みは単純なコストカットを目標とするだけでなく、ロボットによる次世代のサービスのあり方を模索し、さらにはロボットならではの新しい体験をお客様に提供することを目指しています。

導入するロボットの分類

A) サービスロボティクス → 人件費を削減する

- ・ 掃除用ロボット
- ・ 搬送用ロボット
- ・ 食品加工ロボット
- ・ 警備ロボット
- ・ リネンロボット
- ・ 受付・案内ロボット

B) コミュニケーションロボティクス → 笑顔を生み出す

- ・ コンシェルジュロボット
- ・ ソフトクリームロボット
- ・ すし職人ロボット
- ・ パーティンダーロボット

C) 空間知能化ロボティクス → エネルギー、セキュリティ等の管理

- ・ センシング
- ・ 視える化
- ・ ローカルクラウド

主要データ

■ 施設概要

所在地：ハウステンボス周辺敷地

ホテル名：スマートホテル(仮)

階数：2階建(予定)

客室数：200室(予定)

■ 設計体制

施主：ハウステンボス株式会社

設計・監理：株式会社 アスコット

東京大学生産技術研究所 (野城研究室、馬郡研究室、川添研究室)
鹿島建設株式会社

■ スケジュール

設計期間：2013年10月～2014年5月(予定)

施工期間：2014年6月～2014年12月(予定)

オープン：2014年12月(予定)



△模型写真



△イメージCG